

第21期第8回常任理事会議事録

日時 昭和56年3月23日(月) 9.45~12.00

場所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 荒井, 内田, 黒木, 杉村,
松本, 増田, 村山

報告

(庶務)

1. 2月20日, 地球化学研究協会理事長 三宅泰雄氏から, 1981年度学術賞「地球化学研究協会三宅賞」の受賞候補者の推薦方依頼がきた(締切9月5日)。
2. 2月28日, 文部省初等教育局教科書管理課から, 文部省刊行物目録第39号集が送られてきた。
3. 2月28日, 第19回粉体に関する討論会世話人 竹中英雄氏から, 討論会共催と講演募集要領を会誌へ掲載依頼がきた。
4. 3月4日, 日本証券奨学財団理事長 瀬川美能留氏から, 昭和56年度研究調査助成の募集案内がきた(締切4月末日)。
5. 3月19日, 日本生命財団から, 昭和56年度研究助成応募要領が送られてきた(締切5月31日)。

(会計)

会計担当から次のとおり報告がありいずれも了承された。

1. 気象研究ノートほかの課税に関連して公益事業と収益事業との区分について説明があり, 昭和56年から法人税(国税)の税率が引き上げられ, 更に脱税した場合の課税権と徴収権の消滅時効が現在5年のものが7年に延長されるので, これらのことを考慮のうえ公認会計士とよく相談して調書を作成する。
2. 昭和55年度の決算書の作成に当っては, 基本金に200万円の繰り入れと記念事業準備金に500万円を積み立てたい。

(天気)

内田担当理事から勤務の都合により, 編集, 発行の責任者として杉村副担当理事と交代したいとの申し出があり了承された。

(講演企画)

春季大会の講演申込数は235件なので, 第1日目は, 3会場とも9時から18時までとし, 第2, 3日目は予定通りで, 1題につき12分である。シンポジウムは, 感星の大気である。

(教育と普及)

夏季大学は, 会場の都合により8月10日~13日とし, 昨年通り日本教育会館で行う。テーマは, 熱収支と気候変動とした。

議題

1. 気象100年史編纂について

委員に奥田 稷会員, 谷 宏成会員を推薦したい旨の申し出があり了承された。

2. 100年記念事業について

内田担当理事から「天気」関係計画(案)について次のとおり説明があり, 一部修正のうえ承認された。

(1) レビュー

最近100年の顕著な気象学上の発見とその後の発展について, 1年間にわたり毎月取り上げた内容の中からテーマをしぼって著者に自由に執筆してもらおう。読者対象としては主として学部(教養)の大学生。

(2) 座談会(4月特別号)

テーマは, 各地区の顕著な気象現象の調査研究とその発展。

各地区において特徴のある気象現象を中心に, 過去の調査研究の回顧と将来展望について座談会を実施してもらい, 印刷にする。詳細については各支部に連絡をし, 責任者は支部長, 事務局は「天気」地区編集委員とする。

3. 100年記念切手について

発行の方針として郵政省その他に折衝を行うこととする。

4. その他

(1) IAMAP 第4回(1985年)について

岸保理事長から3月2日行われた地球物理学研究連絡委員会気象分科会の報告が行われた。

1985年に開催するよう努力したい。開催できれば京都大学に事務局をおく。地震分科会でも1985年に開催したい意向で, 気象と地震とで話し合うことになった。

(2) 測候所の夜間閉鎖について

気象研究所有志からの要望書の取り扱いについて討論が行われたが, 時間の都合で打ち切られ次回に持越しとなった。

承認事項 佐藤正博ほか14名の新入会員を承認。